

～コンテナ苗の夏季植栽試験～

網走西部森林管理署

網走西部森林管理署では、網走西部流域で初めてのコンテナ苗の夏季植栽試験に取り組んでいます。

1. はじめに

網走西部流域における一般民有林面積は、十九万一千haで流域森林面積の約50%を占めています。そのうち人工林の割合は41%と全道的に見ても比較的高い数値となっています。

この豊富な資源を背景として本流域内及び近隣には大規模な製材工場・集成材工場やバイオマス発電所などが立地しており、林業・木材産業は、基幹産業として更なる「成長産業化」が求められています。

2. 網走西部流域の課題

当流域の今期の森林計画では、前計画を上回る主伐が計画されており、伐採後の植栽が課題となっています。

現在、森林づくりを担う林業労働者、特に植栽や下刈り等の保育作業と苗木を育てる種苗生産の分野では、高齢

化と人材不足が問題となっており、伐った後も再造林を確実に実施出来る体制づくりが急がれています。

3. コンテナ苗夏季植栽への取組

これまで植栽は、苗木を苗畑から掘り取り、根から土を振り落とし状態の「普通苗」を植え付ける方法が一般的でしたが、普通苗は根が剥ぎ出しになっているため、乾燥に弱く植栽適期は春と秋の短期間に限定されるため、苗木の出荷作業及び植栽がこの時期に集中し、作業員の確保等に苦労してきました。

これに対して「コンテナ苗」はポット状の鉢の中で育てた苗を言います。そして根に土が付いた状態のまま植



これがコンテナ苗

栽するため、乾燥に強く冬期を除き植栽時期を選びません。また、初期成長も早いとされており、この特性を生かせられれば、植栽にかかる一連の作業を平準化出来ることも、保育作業の短縮化も図ることが可能であると考えています。



植栽試験の様子

しかし道内における夏季植栽に着目した試験例は少なく、網走西部流域では、試験例が無いのが現状でした。そこで、当署において、当流域におけるコンテナ苗夏季植栽の可能性を検証するため、平成30年度から令和2年度にかけてコンテナ苗の夏季植栽試験を行い、実用化に向けた結果が示されています。

4. 今後の取組

植栽期間が長くこれれば、伐採から造林まで一連の作業で行えるようになり、現場における作業効率の向上や就労環境の改善等を図りながら全体の経費の削減を図ることができ、最終的には森林所有者への利益還元も見込まれます。



伝えよう森林の技術を！

今更コンテナ苗と言う職員もいますが、まだまだ判らないことがあるのが林業の世界です。このような取組を通じながら国有林野事業で培ってきた各種技術について随時情報提供するなど、地域における林業の「成長産業化」貢献できるような努めを行きたいと考えています。